

新技術 解説

ミナミキイロアザミウマを効率よく誘殺する 青緑色トラップの開発

静岡県農林技術研究所 **ど 井**
小林製袋産業株式会社 **は せ べ**
長 谷 部

ま こと
誠
の ぼ る
昇

はじめに

ミナミキイロアザミウマ *Thrips palmi* Karny は、日本では 1978 年に宮崎県のピーマン *Capsicum annuum* L. で初確認され、その後全国に分布を拡大した侵入害虫で、メロン、キュウリ等のウリ科やピーマン、ナス等のナス科果菜類の重要害虫となっている（池田，1981；河合，2001）。

静岡県では県西部を中心に全県にわたりガラス温室での隔離床栽培を特徴とする温室メロンが栽培され、生産額では県産野菜の上位を占める重要品目となっている。この温室メロンにおいて、ミナミキイロアザミウマは葉や果実を吸汁する直接的な被害とともに、メロン黄化えそ病の原因ウイルスであるメロン黄化えそウイルス Melon yellow spot orthospovirus (MYSV) を媒介するため (Kato et al., 1999)、最も重要な害虫となっている。本種は、様々な殺虫剤に対して感受性低下個体群が多数報告されており（柴尾ら，2007；鈴木・松田，2010；石川ら，2016）、種々の防除技術を組合せて、総合的に防除することが重要である（河合，2001）。

これまで、本県の温室メロン栽培におけるミナミキイロアザミウマに対する IPM 技術の一環として、スワルスキーカブリダニ *Amblyseius swirskii* Athias-Henriot の利用技術（増井，2011）やメロン株への赤色光の照射技術（片井ら，2015；石川ら，2018；片山ら，2019）等が開発されてきた。しかし、天敵と併用可能な薬剤が限られることや温室メロンでは一般に作期が重なりながら複数の施設で周年栽培が行われるため、定植直後からのミナミキイロアザミウマの飛び込み量が多いことから、さらなる IPM の構成技術が求められていた。

そこで、天敵カブリダニや赤色光照射、赤色防虫網、化学農薬等と併用可能と考えられる物理的技術として、

色彩粘着トラップについて検討し、ミナミキイロアザミウマに有効な青緑色粘着トラップを開発したので報告する。なお、本研究に取り組むにあたり多大なご協力をいただいた静岡県温室農業協同組合の大橋弘和氏、メロン生産者の皆様、静岡県中遠農林事務所の宮地桃子主任に深謝申し上げる。

I ミナミキイロアザミウマの誘引に効果的な色彩トラップの開発

色彩トラップは、害虫を視覚的に誘引して機械的に捕殺する物理的防除資材であり、今日求められている「農作物の安全性」や「環境への配慮」にこたえる害虫防除手段として広く利用されている（八瀬，2018）。

ミナミキイロアザミウマに有効な色彩トラップとしては、北方・吉田（1982）によって白色系統および青色系統の色調が有効と報告されており、現在でも生産現場では主に青色粘着トラップが利用されている。芳賀ら（2014）は、ミナミキイロアザミウマの色彩選好性について、カラーシートを用いた詳細な試験を実施しており、分光反射率のピーク波長が 481~523 nm の色（青~緑色）において誘殺数が多く、供試した 17 色のうちコバルトグリーン（株式会社中川ケミカル製「カッティングシート®」での色名称、ピーク波長 503 nm）で最も誘殺数が多かったと報告している。しかし、この試験で用いられたコバルトグリーンと市販の青色粘着トラップのミナミキイロアザミウマに対する誘引性の比較はされていないため温室メロンの栽培環境下でこの点を検討した。

1 ミナミキイロアザミウマに対するコバルトグリーン粘着トラップの誘引性

市販の青色粘着トラップ（ホリバー®ブルー、アリストライフサイエンス（以下ホリバー））とコバルトグリーン（カッティングシートをホリバーと同サイズの横 10 cm × 縦 25.7 cm に切り、同サイズの黒色プラスチック板に貼り付けて片面トラップとし、両面テープで同サイズの透明粘着シート（IT シート、日東電工）を貼り付けて粘着トラップとした）を現地のメロン栽培施設に

Sticky Trap Color for Efficient Attraction to Melon Thrips, *Thrips palmi* (Karny). By Makoto DOI and Noboru HASEBE

（キーワード：ミナミキイロアザミウマ、メロン、粘着トラップ、青緑色）